

出前授業を行うことで子供達の中に起きる 「介護の仕事」のイメージの変化について

飴屋貴子¹、伊木康人²、小川文子³、藤本真樹⁴

- 1) 岩国市障害者サービスセンター 2) 済生会山口地域ケアセンター
3) ケアマネセンター楽庵 4) コネクト・ワン

I. 研究目的

我が国は、2025年になると高齢者人口は約3500万人に達するといわれており、介護のニーズはますます増加していくことが予想されている。しかし、そのニーズに対応する介護の人材は未だに不足しており、すでに慢性化していると言っても過言ではない。介護職の人材不足の要因は、今日までに様々な先行研究で指摘されているが、本研究は未来の「介護の仕事」を担う若い世代に焦点をあてる。介護福祉士を育成する養成校(以下、養成校)に目を向けてみると、令和4年の定員充足率は54.6%であり、定員割れをおこしている養成校がほとんどである¹⁾。実際、我が県を見渡しても、養成校が閉校。または学部を閉鎖している所が多く、生徒の減少によって養成校自体も減少している。

では、なぜ介護の仕事を志す若い世代が減少してしまうのだろうか。「平成21年度介護業界および介護職員に対する若者のイメージ報告書」では、若者たちは介護の仕事の必要性は十分に理解されているが、一方で、介護で働くことに、「体力的にきつそう」、「給料が満足いく水準ではなさそう」、「休みがきちんと取れなさそう」というマイナスなイメージがあることを指摘している²⁾。それらマイナスイメージが若者の進路を決める際に大きな影響を与えているのだと考える。

私達研究グループは、我が国のこのような現状を打破する為にも、子供達に介護の意義や専門性を伝え、介護の負のイメージを変えていくことが重要であると考え。子供達の「介護の仕事のイメージ」を把握するとともに、小・中・高等学校にて出前授業を行うことによって、子供達の「介護の仕事のイメージ」に変化をもたらすことが本研究の大きな目的である。

II. 研究方法

1. 対象

2021年12月においてA市に在住するB高校の普通科、生徒2年生75名(女性40名、男性35名、年齢16~17歳)を対象とした。

2. 調査方法

①B高校において社会授業の一環として一般社団法人山口県介護福祉士会による「ふくしの寺子屋」の授業を行う。授業の内容は1) いのちの授業、2)

介護福祉士による「介護の仕事」のお話、3) 質疑応答。②対象者は「ふくしの寺子屋」の授業を行う前と後に自記式質問紙に記入してもらった。

3. 調査実施期間

2020年11月16日~2021年12月7日

4. 主な調査内容

事前の調査票は、基本属性については性別の1項目を設定し、調査項目は①高齢者との触れ合いがありますか②(触れ合う方がおられたら)どのような方ですか③介護の仕事を知ったことがありますか④介護の仕事はどこで知りましたか、などの4項目と、「介護の仕事のイメージ」についての質問は自由記述で設定した。事後の調査票は「介護の仕事のイメージ」についての質問を自由記述で設定した

5. 調査に際しての倫理的留意

調査実施に際しては、B高校への調査目的の説明を行い協力の同意を得た。調査データの取り扱いに際しては、対象者のプライバシー保護に留意し、調査された情報のデータ管理についてはプライバシーの保護を厳重に行なった。

6. 分析方法

分析方法は自由記述に対して「介護の仕事のイメージ」と考えられる内容をコーディングし、KJ法を用いて分析を行った。なお、分析は4名の共同作業で行っている。

III. 結果

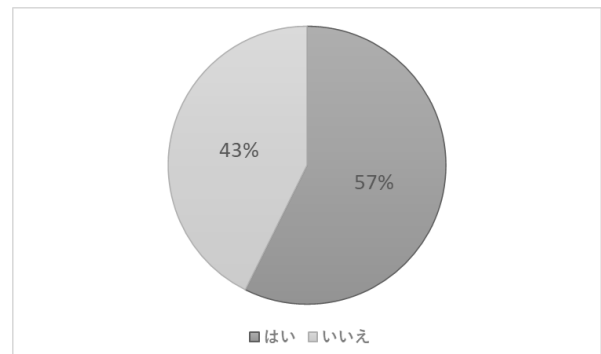


図1. 高齢者と触れ合う機会はありますか。(n=75人)

表 2. 「ふくしの寺小屋」の授業後の「介護の仕事のイメージ」

大グループ	中グループ	小グループ	代表的なコード
「大変な仕事」からのイメージの転換	楽しくやりがいのある仕事	やりがいがある	やりがいがある/やりがいのある仕事
		楽しい	楽しい仕事なのかと思った/楽しさ
		大変だけど、やりがいがある	とても大変そう、でもやりがいもありそう、/でもその分、やりがいを感ぜられる
	大変やきついでではない	きついかど、楽しい	辛くて楽しい仕事、/楽しくない仕事だという印象から楽しい仕事だとわかりました。
		介護の仕事は大変なことだけではない	介護の仕事ということだけでなくつづらのかなど思っていたら、実はそうでもないことがわかりました。
		大変だけど、生きがいを感じる。	大変だけど生きがいを感じる。
		大変だけど、うれしい	大変だけど、笑顔を見ることによって、うれしさを味わえる。
		介護の仕事は大変	高齢者の方も介護しているから大変そうなお仕事です/毎日大変そうなお仕事です。
	ストレスフルな大変な仕事	ストレスが溜まる	ストレスがたまると、/肩は痛くなると思うし、人とそれぞれ対応などを覚えていかないといけないので、神経を使う仕事だと自分では思っています。
		人を支え、人に支えられている	支え合っているイメージがあります。/人を変える難しい仕事。
人とつながる仕事のイメージ	人とつながる仕事	人と関わる	人の命、人生に関わることができる貴重な仕事、/人の人生の最後に関わることが出来る仕事。
		信頼関係	やはり人と関わる仕事はいろんな感情になれるんだと思います。/人とよく関わることもいい仕事だと思う。
		人と仲良くできる	それがなかったら、やっぱり介護してもらっている人は少し不安になったりするかもいれないから、信頼というのをもっと上げていくと良いと思う。
		優しい(き)	一瞬に運んであげたり、言葉遣いしたり、声かけたりしてあげたり、家族のように仲良くしてあげていて、介護の仕事は優しく暖かいイメージ、/みんなが優しいのでとても癒やされる場所なイメージが自分にはあります。
介護の仕事に就く人のイメージ	優しい	心が善良的	心が善良的な人がする仕事。
		心がける	介護はおじいちゃん、おばあちゃんへの心がけみたいな事が大切だと感じた。
	つらくてもあきらめない	あきらめない	介護の仕事はどんなにつらくてもあきらめないという事が前提で知りました。
いろいろなケアをするイメージ	お話をする	お話をする	コミュニケーション能力が必要である、/普遍にお話をする。
	いろいろなケアをする	いろいろなケアをする	お風呂に入れたり、散歩をしたり、たまには寄り添いたいことをしたりするところですよ
人を大切にすることのイメージ	人を助ける	人を助ける	病気とかになっている人の日常生活をお手伝いする人や人を助ける仕事だと感じていますと聞きました。
	一人ひとりの(相手)の事を考える	一人ひとりの(相手)の事を考える	介護の仕事はつねに人の心を考えて、どうしたら相手が進んでくれるか、どうしたらより喜んでくれるか、毎日いろいろなことを考え、工夫して仕事をしているイメージです。
地域とのかかわりが深いイメージ	地域との関わりが深い	地域との関わりが深い仕事	地域との関わりが深い仕事、/地域の活動に参加して進んでいくことが楽しそうだった。
生きる力をもらえるイメージ	生きる力をもらえる	生きる力をもらえる	お年寄りの気持ちに寄り添え、元気やパワーをもらえる仕事。
かけがえのない仕事のイメージ	かけがえのない仕事	かけがえのない仕事	いろいろな経験ができる、かけがえのない仕事だということもわかった。

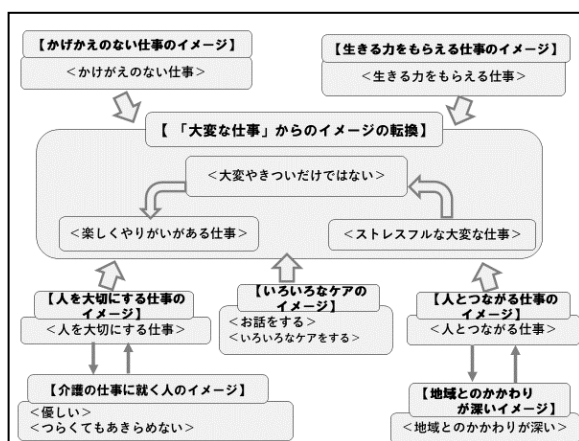


図 6. ふくしの寺小屋の授業後の「介護の仕事のイメージ」について

IV. 考察

1. ふくしの授業を受ける事前の結果について

図 3 及び図 4 から、子供達の 72%が「介護の仕事」について何らかの情報を聞いており、その情報源は主に家族、TV、SNS から得ていることが分かった。そして、子供達が抱えているイメージについて KJ 法によって分析した結果、表 1 のように 12 の中グループから【介護職のネガティブなイメージ】、【介護の仕事内容のイメージ】、【やりがいがありそうなイメージ】、【介護職員のイメージ】、【お金がかかるイメージ】、【地域にある介護のイメージ】の 6 つの大グループが抽出することができた。

【介護職のネガティブなイメージ】は、子供達は「介護の仕事」はとても忙しく大変であり、力仕事であり、ストレスが溜まるというようなイメージであった。これは先行研究でもあるように²⁾、「介護の仕事」に対してネガティブに受け取っていることが私達の研究においても確認できた。しかし、その一方で、【やりがいがありそうなイメージ】では、「介護の仕事」をポジティブにも捉えており、子供達はネガティブなイメージと同時にポジティブなイメージも捉えていることが分かった。【介護の職員のイメージ】は、「介護の仕事」で働いている職員は優しく、頼まれごとは何でもするというイメージ。さらに【地域にある介護のイメージ】は、子供達の身の回りに実際にある福祉施設のことや、近しい人（例えば親や親せき）が介護の仕事で働いているなど、子供達が実際に「介護の仕事」を目にしていることが直接イメージとして定着していたことが分かった。【介護の仕事内容のイメージ】は、介護の仕事について高齢者に対してのお世話という表現で食事・排泄・移動・コミュニケーションなどの介護技術をイメージしており、【お金がかかるイメージ】では介護を行うにはお金がかかるというイメージであった。

以上の 6 つのイメージを子供達は抱えていることが分かった。そして、さらに図解化を行った結果、子供達はそれぞれのイメージを自分の中で繋げて考えることは少ないのではないかと考える。子供達は、聞いた情報をそのまま受け取っているだけで、まだ深く考察できておらず、各々が繋がりがあうことなくバラバラに存在している。ちょうど風船がフワフワと浮くような表面的なイメージであり、お互いの概念が近寄りたり離れたったりしているため、相互に影響を与えたりしていることも少ない(図 5)。

2. ふくしの授業を受けた事後の結果について

ふくしの授業後の結果、表 2 のように 12 の中グループを抽出し、【かけがえのない仕事のイメージ】、【生きる力をもらえる仕事のイメージ】、【人を大切

にする仕事のイメージ】、【介護の仕事に就く人のイメージ】、【いろいろなケアのイメージ】、【地域とのかかわりが深いイメージ】、【人とつながる仕事のイメージ】、【「大変な仕事」からのイメージの転換】の8つの大グループを抽出した。さらに、8つの大グループの図解化を行った（図6）。

ふくしの授業にて実際に働いている介護福祉士の話に聞くことで、子供達は介護について深く考えるきっかけが生まれたと考える。今までバラバラであったイメージが次第に繋がりが合い、【人を大切にする仕事のイメージ】と【介護の仕事に就く人のイメージ】の категорияは、介護の仕事に就く人は優しい人柄だからこそ人を大切にする仕事ができるという相互の関係が生まれ、【人とつながる仕事のイメージ】と【地域のかかわりが深いイメージ】は、介護の仕事は利用者とは繋がりと、さらに働いている職場を超え、地域との人々という繋がりと広がった。そして、【かけかえない仕事のイメージ】、【生きる力をもらえる仕事のイメージ】、【人を大切にする仕事のイメージ】、【いろいろなケアのイメージ】、【人とつながる仕事のイメージ】の7つのイメージは、さらにコアなイメージである【「大変な仕事」からのイメージの転換】に影響を与えていく。

【「大変な仕事」からのイメージの転換】は、中グループにおいて<楽しくやりがいがある仕事>と<ストレスfulな大変な仕事>という、ポジティブなイメージとネガティブなイメージが同時に存在している。ふくしの授業を受ける前も同様に二つのイメージはみられていたが、事後では新たに<大変やきついでいい>というイメージが生まれた。この<大変やきついでいい>のイメージは、「大変な仕事」というネガティブなイメージから「大変だけど楽しくやりがいがある仕事」というポジティブなイメージに転換されるイメージである。ただし、ネガティブなイメージの全てがポジティブへと転換されるということではなく、子供達は介護福祉士の話聞き、7つのイメージを抱くことによって、(中国の易学にある陰と陽の関係があるように) 介護の仕事はポジティブな一面とネガティブな一面の二面性があるということを認識し、その二つの間の中で、介護の仕事は確かに大変でストレスを感じやすい仕事ではあるが、それだけに楽しさ・やりがいが見出せる仕事である、というイメージが沸き上がったのだと考える。

3. まとめ

ふくしの授業は介護福祉士のポジティブな話で進

められる為、その話を聞く子供達が必然的にポジティブに変化していくのは本研究の注意の必要な所である。しかし、今まで話を聞くだけでバラバラであった「介護の仕事のイメージ」がふくしの授業を行うことで子供達の中でゆっくりと明確となり、さらに大変な仕事の中でも楽しさ・やりがいがあるという【「大変な仕事」からのイメージの転換】を発見するに至ったことは、この活動の有意義性を証明できたのではないかと考える。今後も私たち研究チームは、高校生から中学生、小学生など幅を広げて調査研究を進めていく予定である。

V. 結論

ふくしの授業を行う前では【介護職のネガティブなイメージ】、【介護の仕事内容のイメージ】、【やりがいがありそうなイメージ】、【介護職員のイメージ】、【お金がかかるイメージ】、【地域にある介護のイメージ】の6つのイメージを持っていたが、子供達はそれぞれのイメージを自分の中で繋げて考えることは少ない為、各々が繋がりがあうことなくバラバラに存在していた。授業を行った後では、【かけかえない仕事のイメージ】、【生きる力をもらえる仕事のイメージ】、【人を大切にする仕事のイメージ】、【介護の仕事に就く人のイメージ】、【いろいろなケアのイメージ】、【地域とのかかわりが深いイメージ】、【人とつながる仕事のイメージ】、【「大変な仕事」からのイメージの転換】の8つのイメージが生まれ、介護の仕事は確かに大変でストレスを感じやすい仕事ではあるが、その中から楽しさや、やりがいが見出せる仕事であるというイメージに繋がっていた。

謝辞

本研究にあたり快く御協力くださった子供達に深く感謝いたします。

引用参考文献

- 1) 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会 (2022) (kaiyokyo.net, 2022. 12. 19)
- 2) 社会福祉法人神奈川県社会協議会 (2009) (http://www.knsyk.jp/s/shiryou/image_chosa.html)